
■ 実践報告

プロテスタント教会の修養会プログラムに関する実践報告 －CRCによる2005年修養会－

榊原 康成

(シティ リジョイス チャーチ)

楠本 和彦

(南山大学人文学部心理人間学科)

丹羽 牧代

(南山大学名誉教授)

要旨

CRC (シティ リジョイス チャーチ) は2004年から継続的に修養会を実施してきた。CRCの修養会はワークショップ形式で行われるところに特徴がある。本稿は、2005年に実施したCRCのワークショップ形式の修養会プログラムについて報告することを目的とした。

2005年に実施したCRCの修養会では、3回の集会と礼拝が行われた。集会では、4つのGAMEが実施された。修養会において実践された学びについての再適用について述べた。この実践的学びは時をおき、参加者も変わる形で何度か繰り返し行う価値があると考えることができた。参加者は、ワークを通して、自分のキリスト教理解や立ち位置などを能動的に選びつつ考えることが可能となる。

キーワード

修養会、ワークショップ

1. はじめに

CRC¹ (シティ リジョイス チャーチ) は2004年から1年に1～2回の修養

¹ CRC (シティ リジョイス チャーチ) は、榊原康成牧師が、2004年に新しく教会を建て上げる開拓伝道の働きを始めて設立された教会である。2004年当時は、名古屋市の栄地域にはプロテスタント福音派に所属する教会がなかったことから、この地域での都市部伝道と次世代への伝道を目指して始まった。

当初は、牧師の自宅であるマンションの1室を礼拝場所として始まった。その後、貸会議室を使用するなどして、現在は名古屋駅近くのCBI (キリスト聖書学園) のビルの1室を礼拝場所として使用している。自前の会堂を持たないため、CBIでの日曜日の礼拝の他に、伏見駅近くの牧師館での金曜日の夜の礼拝や集会などをおこなっている。

会を実施してきた（資料1参照）。CRCの修養会はワークショップ形式で行われるところに特徴がある。その実践の一端を実践研究として報告し検討してきた（榊原・楠本・丹羽, 2023; 丹羽・楠本, 2021; 楠本・丹羽, 2008）。本稿は、これまでの実践研究を踏まえて、2005年に実施したCRCのワークショップ形式の修養会プログラムについて報告することを目的とする。

2. 修養会の実施

2-1. 全体の概要

2005年9月24日（土）～25日（日）の1泊2日で、CRC第2回修養会は実施された。9月24日（土）16時30分～18時に集会1を実施した。その後、20時～22時に集会2を実施した。9月25日（日）10時に礼拝が行われた。11時に集会3を実施した（資料2参照）。修養会全体と集会内容の企画・立案は榊原康成牧師が行った。集会の運営・実施も榊原牧師が行った。

今回の修養会はリトリートとしての意味もあったため、場所は山梨県の宿泊施設が選ばれた。宿泊も修養会会場も同一の施設で行われた。参加者は榊原牧師を含め、12名(女性7名、男性5名)であった。

2-2. 祈り

キリスト教の教会では、日曜日の礼拝で毎週祈る。また、教会でおこなう様々なプログラムでは、その初めに主なる神様に祈りを捧げて、プログラムの導きと充実を求めてから開始するのが通常である。そしてプログラムの終了時にも主なる神様への感謝の祈りを捧げて終える。

この修養会のプログラムの実施においても、プログラム全体の初めと各プログラムの開始時に以下の祈りを捧げてからおこなわれた。

恵み深い父なる神様、あなたのお名前を心から賛美します。

この修養会を祝福して、参加する一人ひとりをふさわしく導いてください。

今回のプログラムでは、私たちが毎週、あなたに捧げている礼拝の意味を聖書のみことばに照らして、改めて深く学びたいと願っています。

礼拝のプログラムの内容を、一つひとつの聖書のみことばからその意味を味わっていきたく願っています。そして、礼拝捧げていく意味をより深く知り、知った上で心から喜び捧げていくことができるようになりたいと願っています。どうぞ導いてください。

心からの感謝とともに信じて、私たちの唯一の救い主であるイエス・キリストの尊いお名前を通して、この祈りをお捧げします。

アーメン

2-3. 集会1のプログラム

集会1では、祈りや賛美やショートメッセージに加えて、GAME1「日曜日にゴルフに誘われたら」とGAME2「無人島へ持っていくもの」が行われた（資料2参照）。

1) GAME1「日曜日にゴルフに誘われたら」

GAME1「日曜日にゴルフに誘われたら」のプログラム内容について記す（資料3参照）。このGAMEは松原の著作にある「この世で生きる」の一部を引用した（松原, 2000, pp.111-113; 松原, 2011, pp.82-83）。

GAME1の目的は、次の3点であった。1. ノンクリスチャンの中で生きているクリスチャンの気持ちを理解する。2. ノンクリスチャンの価値観と、彼らのクリスチャンに対する気持ちを理解する。3. 社会での証の方法を探る。

手順は以下の通りであった。

1. ロールプレイのデモンストレーションを行う2名1組を選んだ。
2. ロールプレイでは二つの役割が設定された。(1) ゴルフに誘う上司は、キリスト教会には行っていない。素晴らしい上司であり、部下を信頼している。部下に期待もしている。ゴルフと一緒に行くことを無理強いしているわけではないというロール設定であった。(2) 部下は、クリスチャンである。上司に対して信頼し、尊敬もしている。上司に期待されている。日曜日は教会に行きたいという思いをもっているというロール設定であった。
3. ロールプレイは次のような場面設定であった。金曜日の夕方、上司は部下を日曜日にある大切な接待ゴルフに誘っている。けれども、部下は、クリスチャンで、日曜日には礼拝に行きたいと思っている。
4. ロールプレイが実施された。手順1で選ばれた2名1組によって、10分程度のデモンストレーションが行われた。
5. ふりかえりがロールプレイ終了後行われた。デモンストレーション内容に関してロールプレイを行った人と見ていた参加者とが自由に感想や意見を話し合った。

ファシリテーターの意図としては、以下の点について、気づきが深まることがねらいだった。

- (1) ロールプレイをしている時に、どのように感じたか。
- (2) あなたと相手の会話は、どのように進んだか。
- (3) あなたは何故、そのように対応したのか。
- (4) このロールプレイは、あなたの実生活とどんな点で共通していたか、していなかったか。
- (5) この場面で、何が問題だと思ったか。

(6) あなたがこのようなジレンマ（困ったこと）に直面した時、どう対処するか。

ファシリテーターの意図としては、ふりかえりの留意点として、次のことが考えられていた。「相手の価値観を理解すること。相手の感情を受け入れること。部下は、自分の言動が、日頃の証、クリスチャンライフをどう示しているのか」。

2) GAME 2 「無人島へ持っていくもの」

GAME 2 「無人島へ持っていくもの」のプログラム内容について記す（資料4参照）。このGAMEは松原の著作にある「無人島旅行」を引用した（松原, 2000, p.80; 松原, 2011p.36）。このGAMEの場面設定は、あなたは、無人島へ行って、新しい生活をスタートさせることになったというものであった。

手順は以下の通りであった。

1. チーム分けが行われた。家族構成、性別、年齢などができる限り多様になるように、チーム分けを行った。榊原牧師があらかじめ組み合わせた2~3名で、ジャンケンをして二つのチームに分かれた。
2. 各自が、無人島へ持っていきたいものを、記入用紙に10個書いた（資料5参照）。但し、家族を連れていくことはできず、生き物を持っていけないという条件があった。この島には、水や食べ物は十分にあるという設定であった。
3. 次のような指示に関して、グループで話し合った。「あなた方を乗せ無人島へ向かっていた船が難破した。船を軽くしなければならない。品物はグループの中で、5つだけにしなければならない」（資料6参照）。
4. ふりかえりを行った。以下の点について、グループで話し合った。
 - (1) やっていてどう感じたか。
 - (2) どうやって5つのものに選ばれたか。
 - (3) 何故、この5つが選ばれたか。
 - (4) この経験から何を学んだか。
 - (5) この経験で学んだことを、どうしたら実生活に生かせるだろうか。
5. 全体でのわちあひ
グループでのふりかえり後、そこで話し合われたことを全体でわちあひした。

2-4. 集会2のプログラム

第1日夜の集会2では、祈りや賛美と、GAME 3 「何故、礼拝するのか？」が行われた（資料2および資料7参照）。このGAMEは榊原康成牧師がオリジナルに作成した。

1) GAME 3 「何故、礼拝するのか？」

手順は以下の通りであった。

1. 本修養会の前週9月18日に、CRCにおいて実際に行われた礼拝の週報（資料8参照）が示されて、礼拝のプログラムの中で自分が一番大切だと思い、一つだけ残すとしたら何を残すかということをもまずは個人で考えるように求められた。
2. 「その後、迫害が始まり、皆で集まるのさえ危険である」という場面設定が提示されて、「そのような状況の中で、何を一つだけ残してこの非常時の友と一緒に過ごす礼拝とするか。なぜ、それを残したのか」を小グループで話し合うことが求められた。
3. 各グループで話し合われた内容が全体に紹介された。

2-5. 礼拝

本項では、本修養会での礼拝の説教について記す。本項は、実際の説教と同様に、口語体にて記す。聖書箇所は『聖書 新改訳2017』によった。

1) 説教

聖書箇所：ルカの福音書 19章1～10節、(参照 ルツ記)

説教題：鎧を脱ぐ時

1. 序

新約聖書の中でもよく知られている取税人のかしらであるザアカイという人物を中心にした出来事です。町の人たちから嫌われており、罪人だと呼ばれていたザアカイが救われていく様子が記されています。この出来事は、18章18節から27節に記されている出来事と呼応しています。

18章では、何をしたら永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうかと質問をした人に、イエス様は持っているものをすべて売り払って、貧しい人に分けてやりなさいと答えました。この人は、イエス様の答えを聞くと、非常に悲しみ、立ち去ってしまうのです。律法は少年のころからすべて守ってきたと自負していた人でしたが、大変なお金持ちであったので、すべてを分け与えることはできないと思ったのです。

イエス様はこの人が非常に悲しんだのを見て言葉を続けました。「金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが易しいのです。」と教えます。これは当時の人々の考えからは驚くべき教えでした。当時は神に祝福されているからお金持ちになったと理解されていましたから、そのお金持ちが神の国に入れないと言われたからです。これを聞いて驚く人々に対して、イエス様は「人にはできないことが、神にはできるのです。」と教えました。

この19章で罪人と呼ばれていたザアカイが変えられて救われていくことが、18章の人にはできないことが神にはできるという言葉が実現していく時でした。

2. 本文

エリコの町を訪れたイエス様を見たいと思って木に登ったザアカイの熱心さが彼を救ったのではなく、イエス様がザアカイを見つけて出して、ザアカイのところに行って、彼を罪から救い出したのです。

イエス様は、最初から町の嫌われ者であるザアカイのことを知っていました。そして最初に彼の名前を呼んで「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」と声を掛けました。

この時、二つの反応がありました。

声を掛けられたザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを家に迎えました。

一方、町の人々は文句を言ったのです。「あの人は罪人のところに行って客となった」と言いました。当時は罪人と呼ばれてしまった人とは交流を持たないようにしていたのです。罪人とは神の国に入ることができない人だと考えられていたので、そのような人とは交流を持たなかったのです。特に祭司たちや律法学者の人々は彼らとは一切交流をしなかったのです。ですから、既に多くの人々から先生と呼ばれて注目されていたイエス様が罪人と交流をしたことに町の人々は驚いて、ザアカイへの非難だけではなくイエス様にも非難の声を上げたのです。

今日、最初に考えたいのは、この時のザアカイが持っていたものと持っていなかったものです。

ザアカイはローマの税金を徴収する取税人のかしらという仕事をしている人でした。誰でも簡単に就ける仕事ではありません。ザアカイは、ローマ帝国の後ろ盾、地位、権力、部下、お金、安定した生活を持っていました。彼が、その権力で税金を誤魔化して自分の利益にしているにもかかわらず、人々には罪人だと揶揄することはできても、正式に訴えることはできなかったのです。

一方で持っていなかったものもあります。善良な人という良い評判はありません。友人もいなかったでしょう。人々からの信頼もありません。聖書に背が低かったと容姿についても記されていますが、これは彼のコンプレックスであったことが伺い知れます。そして背が低かったので、群衆のためにイエス様を見ることができなかったと、ありますから人々は背の低いザアカイを群衆の前の方へ行かせてあげることはしなかったことから、彼がやはり信頼されたり愛されていなかったことが分かります。

町の嫌われ者であり、コンプレックスもあったザアカイは、権力やお金という鎧を堅く身に纏って生きていたと思われます。人から脅し取ったお金で財産を殖やして、自分の力で得たものでどんどん自分を強く見せようと虚勢を張って生きていた人なのです。

この日は、有名なイエス様が自分の住む町にやって来たと聞いて、どんな方かと見ようとしました。最初は、イエス様に対して強い関心や求める心は薄かったと思います。

ところが、木の上にいるザアカイをイエス様は最初に、彼の名前を呼び、彼の家に泊まると言うのです。嫌われ者の自分の名前を知ってくださる。町の人々から嫌われている自分の家に、多くの人に慕われているイエス様が来てくれると聞いて彼は喜びました。

これまで、弱みを見せたりしたら、他の人から馬鹿にされてしまうと想着て、お金も集めてどんどん鎧を強くしてきたザアカイは、その生き方を変えることも止めることも自分ではできなかったのです。しかしこの時「ザアカイ」と名前を呼ばれ「家に泊まる」と声を掛けられたことで、その一瞬で彼の心は変えられたのです。

そして実際にイエス様を自分の家に招いたことで、彼は、もはや虚勢を張る必要はなくなりました。自宅に招いての食事の席だったと思われませんが、ザアカイは立ち上がってイエス様を主と呼んで告白をしたのです。「主よ、ご覧ください。私は財産の半分を貧しい人たちに施します。だれかから脅し取った物があれば、四倍にして返します。」これはイエス様を神様と信じて悔い改めた告白の言葉です。

旧約聖書に記される律法に従えば、脅迫してゆすり取った物について償うならば、元の物を返した上で、それに五分の一を加えると定められています（レビ記6章5節）。他には自分の罪を告白して、その償いとして総額を弁償し、それにその五分の一を加えて、償いを果たすともあります（民数記5章7節）。また、盗んだ物に関しては、2倍にして償うのが通常の規定です（出エジプト記22章4節）。

これらの律法と比較してみると、ザアカイは律法に定められているもの以上の償いを自ら申し出ていることが分かります。

この食事の席で、イエス様からザアカイが盗みなどをしていただけされたものではありません。自分から告白したのです。立ち上がっているのは、神様の前に進み出ている姿と受け取れます。自分からこんな告白をすれば、明日から、町の人にはこれまで以上に非難されるかもしれないのに、彼は恐れなくて告白をしたのです。

ザアカイは、これまで堅い鎧を着るように虚勢を張って、多くのお金などに頼って心を満たそうとしてきましたが、もうその必要がなくなったことが分かったのです。イエス様に自分が受け入れられていることが、他のどんなものとも比べることができないほど素晴らしい恵みであるかを知ったのです。ザアカイは、安心して虚勢という鎧を脱ぎました。これからは新約聖書、エペソ人への手紙6章13～17節にあるように、神様のことばを信じて、そのことば

を神の武具として身に纏っていくのです。

ザアカイは、罪を告白しました。この先は町の人々の非難や馬鹿にする声を浴びることになるかも知れません。しかしザアカイにはすべき働きがあります。エペソ人への手紙の6章15節にはこうあります。「足には平和の福音の備えをはきなさい」。ザアカイは、非難されてもこれからの日々は町へ、社会へ出て行って仕事をし生活をするその足には神様の平和のみことばをはいて出かけて行くのです。他人から盗むのではなく平和を与える人へとになっていくのです。既にイエス様に受け入れられているのですから、恐れることはないのです。

もう一人、旧約聖書ルツ記の主人公であるルツのことを短く味わっておきます。ルツはイスラエル人から見れば、交流をしたいとは望まない外国のモアブ出身の女性です。ルツの住んでいたモアブの地で結婚をしたイスラエル人の夫は既に亡くなっており、彼女は未亡人でした。そしてやはり未亡人となっていた義理の母であるナオミについて行くかたちで、ナオミの故郷であるイスラエルのベツレヘムへ移住しました。

義理の母ナオミを通して主なる神様を信じたルツは、ナオミと別れることは主と離されてしまうことだと言い「あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です」と告白しました。そして初めてイスラエルの地へ行ったのです。

しかしそのような信仰の告白をしてベツレヘムにやって来たルツの生活は困難が多いものでした。生活も大変でした。さらに町の人々は初めはルツのことを、名前を呼ばないで「モアブの女」と呼んで蔑むような状況でした。

しかしルツは自分の故郷に留まることもできたのに、ナオミと一緒に行きました。それは主の近くに行くことを表します。町の人々が自分のことを悪く思ったとしてもルツにとっては大きな問題ではありませんでした。イスラエルの神、主なる方を信じたので、主の近くである約束の地と呼ばれる地に行くことは安心できることだったのです。他の人からの評価などは問題にはなりません。ルツにとってはナオミと一緒に主の近くにいることが一番の安心であり、主を信じていることが一番豊かなことだと知っていたからです。

普段の私たちは、人の目や評価を気にしがちです。でも大切なのは、主が私のことをどう見てくださるのかということに心を向けてルツのように行動することです。

3. 結び

ザアカイは主イエスの優しい声を聞きました。嫌われ者の自分の名を呼び、友となってくださる主を信じて平安と喜びを得たのです。

ルツも、最初は町の人々には名前さえ呼んでももらえませんでした。そのような中でも義理の母のナオミを助けて誠実に働き、主を信じて歩んでいる姿をちゃ

んと見ている人がいました。そしてその人から「主があなたのしたことに報いてくださるように。あなたがその翼の下に身を避けようとして来たイスラエルの神、主から、豊かな報いがあるように。」と声を掛けられました。それは主からの声です。やがてルツは、最高の息子にもまさる嫁と呼ばれて、やがてイスラエルの王となるダビデの祖父となるオベデを産んで、イエス様の家系図にその名を残すことになるのです。

あなたは今、何を持っていますか。それを持っていることでああなたの心は平安で喜びがありますか。それは失ったりすることはありませんか。何を一番大切にするべきなのかを、もう一度、聖書のみことばからしっかりと考えていきたい。

「主はご自分の羽でああなたをおおいあなたはその翼の下に身を避ける。主の真実は大盾また砦」詩篇91篇4節

終わり

2-6. 集会3のプログラム

第2日の午前中、礼拝後に、集会3が行われた（資料2参照）。集会3ではGAME4「イエスと私」が実施された（資料9参照）。このGAMEは榎原康成牧師がオリジナルに作成した。

1) GAME4「イエスと私」

手順は以下の通りであった。

1. 「イエス」と「私」と記された紙片（資料10参照）と、A4用紙が各自に配布された。台紙に、「イエス」と「私」と記した紙片を、両者の関係が分かるように自由に貼り付けて、表すよう指示された。そして、距離や上下左右の位置などを考えて、「イエス」と「私」の関係を表すように指示された。
2. 「私」の周りに、自分の周りにあるもの、存在するもの、持っているもの、持ちたいもの、関係があることを書き出すように指示された。それらと自分との距離、近いか大切かそうではないかなどを考慮して図示するように求められた。その際、色紙、カラーマーカーを使って自由使ってよいことが伝えられた。
3. 2で図示した中で特に大切なものに印をつけるよう指示があった。
4. ふりかえり

以下の点からのふりかえりを個人が全体に伝え、そのふりかえりを聞いた人が相手に感想を伝えた。

- (1) なぜ、その位置に「イエス」と「私」を置いたのか？
- (2) 何が大切だと思っているのか？
- (3) それはなぜ大切なのか？

3. 展望

本稿では、CRCでのワークショップ型修養会の実践について記してきたが、最後に実践された学びについての再適用などについて述べておく。結論としては、この実践的学びは時をおき、(また参加者も変わる形で) 何度か繰り返し行う価値があると思われる。もちろんどの学びも同じことを繰り返して行ってもその時々には得られるものが違うという価値がある。しかし、とりわけこのワークショップはユニークさを備えている。そのひとつは、このワークショップの中心のひとつにあった「礼拝とは何か」という問いかけ及び「私とイエスとの関係」などのワークを通して、自分のキリスト教理解や立ち位置などを「能動的に選びつつ」考えるという点であろう。参加者のキリスト教との距離の度合いによってその選び方は当然異なり、また同じ人が同じワークを再度行えば、また異なった選択、あるいは以前とは異なった選択の基準や方法となって表れる。人間的・信仰的成長が反映されると思われるからである。そういう意味で、このワークには初めての参加者であれ何度も行う参加者であれ、その都度都度自分にとってキリスト教とは何か、を学べることの意味合いが大きいと思われる。礼拝理解や自分の立ち位置の理解はキリスト教信仰の中心的・本質的なことの大きなひとつだからである。この視点に立ってこの先再度同じ実習を行う可能性、そしてその折には二度目以降の参加者に対しては、以前との違いを振り返ってもらう可能性など、色々な応用可能性があることを記して本稿を終える。

備考

「2-2. 祈り」と「2-5. 礼拝」は榊原康成牧師が執筆した。「3. 展望」は丹羽牧代が執筆した。それ以外の箇所は、榊原牧師作成の資料を基に、楠本和彦が文章化し、それを榊原牧師が確認した。

本論文内の榊原康成牧師がオリジナルに作成した実習を使用する場合は、本論文の末尾にある南山大学人間関係研究センター「実習使用規定」に従ってください。

引用文献：

- 楠本和彦・丹羽牧代 (2008). 実習「閉ざされた村」人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター) . 7.141-154.
- 松原洋満 (2000) . 楽しい！ 発見&体験ゲーム CSセンター.いのちのことは社.
- 松原洋満 (2011) . 発見・体験ゲーム集「教会教育ノート」へようこそ！
Retrieved August 7, 2024, from <https://churcheducation.jimdofree.com/%E3%83%86%E3%82%AD%E3%82%B9%E3%83%88/>

- 丹羽牧代・楠本和彦 (2021). ワークショップ形式の修養会の意義と課題に関する検討 ―2018年春の修養会の実践報告と検討を中心に― 人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター), 20, 87-129.
- 榎原康成・楠本和彦・丹羽牧代 (2023). ワークショップ形式によるプロテスタント教会の修養会に関する実践報告と検討 人間関係研究 (南山大学人間関係研究センター), 23, 51-80.
- 新日本聖書刊行会 (2017). 聖書 新改訳2017. いのちのことば社.

資料 1

CRC修養会一覧（丹羽・楠本,2021に追記・修正）

時期	長さ	テーマ・主な内容	学び方・実習のタイプ
2004年秋	1泊2日	信徒自身の中にある聖書の言葉を探求する/赦し	聖書クイズ/ケーススタディ（事例を用いたディスカッション）/価値観の明確化/牧師の講解説教
2005年秋	1泊2日	礼拝をすることの大切さ・礼拝の意味（日曜日の誘惑/無人島へ一つだけもっていくもの/何故、礼拝するのか？（礼拝のプログラムを一つだけ残すとしたら）/イエスと自分との距離	ロールプレイとディベート/図式化/価値観の明確化/牧師の講解説教
2006年秋	1泊2日	祈り（聖書の中での祈り、実生活の中での自分の祈り）	個人への問いかけ・個人の気づきとわかちあい/祈りの必要性についてのディベート/牧師の講解説教
2007年春	半日	日々のデヴォーション(祈り)の学び	平日と日曜日の祈りの時間の図式化とわかちあい/牧師の講解説教
2007年秋	1泊2日	葬儀について考える、祈り、人や社会との約束について考える（実習「閉ざされた村」）	個人への問いかけ・個人の気づきとわかちあい/牧師の講解説教
2008年秋	1泊2日	人生の最期の時どうする？（最後の食事、処刑される時？）	個人への問いかけ・個人の気づきとわかちあい/牧師の講解説教
2009年春	1泊2日	聖書の出来事を知る/信徒としての喜びに気づく/聖書にある喜びの追体験	聖書すごろく/ロールプレイ/牧師の講解説教
2010年春	1泊2日	聖書の中の出会いによって起こったこと、信徒としての出会いによって起こること（イエス（または教会）との出会いの現在・過去・未来/聖書の登場人々のイエスとの出会い）	小グループやペアにおける気づきの自己開示とフィードバック/牧師の講解説教
2010年秋	半日	自分や他者の喜びやお互いの喜びの違いに気づく	カードへの記入・カードのわかちあい、個人の気づきとペアでのわかちあい/牧師の講解説教
2011年春	1泊2日	賛美について理解を深める（賛美を聴いて、その気持ちを表す/新しい賛美（歌詞）を作る）	小グループにおける気づきの自己開示とフィードバック/賛美（歌詞）の創作/牧師の講解説教
2012年春	1泊2日	神を知り自分を知る（自分たちの体験を基に、神や神と人の関わりについて考える）	KJ法的ワーク、気づきの自己開示とフィードバック/牧師の講解説教
2013年春	1泊2日	神に従った聖書の人物の心を知る/なぜかけ（人物・物・オチ）/聖書の人物のなりきり演劇/自分(聖書の人物)ならどうする？	なぜがけ遊び/ロールプレイ/牧師の講解説教
2013年秋	半日	自分の性質を知る、その自分がどのように神に仕えるのか（気質分析）	質問項目に答える、各自の気質の特徴を知る、わかちあい/牧師の講解説教
2014年春	1日	自分の隠れた才能（賜物）を知る、その自分がどのように教会に仕えるのか（賜物発見）	質問項目に答える、わかちあい/牧師の講解説教
2014年秋	半日	4コマまんが/友人のために何をするか	4コマまんがの吹き出しに言葉を創作する、そのまんがを演じる/牧師の講解説教
2015年秋	半日	祈り/危機の時に何を期待し、何を祈るべきか	塩狩峠の各登場人物となって祈る内容を探る/牧師の講解説教
2016年春	半日	喜びに思いをはせる	聖書の主人公や脇役の喜びについて想像し、ストーリーを創作する/牧師の講解説教
2017年春	半日	飛び出す絵本/映像、仕掛け絵本によって自分に飛び込んでくる内容を受け止める	DVD：スーパーブックを鑑賞/牧師の講解説教
2018年春	半日	神が作ってくださっている自分の理解を深める、実習「決断の時」	個人の選択、小グループにおける気づきの自己開示とフィードバック/牧師の講解説教
2022年春	半日	実習「聖霊の働きについての学びとわかちあい」	個人の選択、KJ法的ワーク/小グループにおける経験のわかちあい（証）/牧師の講解説教

資料2

第2回CRC修養会プログラム『ゆったりとみことばとともに過ごす』

タイムスケジュール

9/24 (土)

16:30 集会1

- ・ 祈り
- ・ 賛美

GAME 1 「日曜日にゴルフに誘われたら」

GAME 2 「無人島へ持っていくもの」

- ・ 賛美
- ・ ショートメッセージ
- ・ 祈り

18:00 夕食

20:00 集会2

- ・ 祈り
- ・ 賛美

GAME 3 「何故、礼拝するのか？」

- ・ 賛美
- ・ 祈り
- ・ 自由

22:00 終了

9/25 (日)

7:30 朝食

10:00 礼拝

11:00 集会3

GAME 4 「イエスと私」

12:00 終了

資料3

GAME 1 「日曜日にゴルフに誘われたら」手順書

目的：

1. ノンクリスチャンの中で生きているクリスチャンの気持ちを理解します。
2. ノンクリスチャンの価値観と、彼らのクリスチャンに対する気持ちを理解します。
3. 社会での証の方法を探ります。

手順：

1. デモンストレーションを行う2名1組を選びます。
2. ロールプレイの役割
 - (1) ゴルフに誘う上司
教会には行っていない。
素晴らしい上司。部下を信頼している。部下に期待もしている。ゴルフと一緒に行くことを部下に無理強いしているわけではない。
 - (2) 部下
クリスチャン。
上司として信頼し、尊敬もしている。上司に期待されている。日曜日は教会に行きたい。
3. ロールプレイの設定
金曜日の夕方、上司は部下の〇〇（部下役の氏名）を日曜日にある大切な接待ゴルフに誘っています。
けれども、部下は、日曜日には礼拝に行きたいと思っています。
4. ロールプレイの実施
デモンストレーションを実施します。
5. ふりかえり
デモンストレーション内容に関して、ロールプレイを行った人と見ていた参加者が、自由に感想や意見を話し合ってください。

資料4

GAME2「無人島へ持っていくもの」手順書

場面設定：あなたは、無人島へ行って、新しい生活をスタートさせることになりました。

手順：

1. チーム分け
あらかじめ組み合わせた2～3名でジャンケンをして、二つのチームに分かれてください。
2. 個人記入
あなたが無人島へ持っていきたいものを、10個書いてください。
家族を連れていくこと、生き物を持っていくことはできません。
この島には、水や食べ物は十分にあります。
3. グループでの話し合い
あなた方を乗せ無人島へ向かっていた船が難破しました。船を軽くしなければなりません。
品物はグループの中で、5つだけにしなければなりません。
4. ふりかえり
以下の点について、グループで話し合ってください。
 - (1) やっていてどう感じましたか。
 - (2) どうやって5つのものに選ばれましたか。
 - (3) 何故、この5つが選ばれましたか。
 - (4) この経験から何を学びましたか。
 - (5) この経験で学んだことを、どうしたら実生活に生かせるでしょうか。
5. 全体でのわかちあい

資料5

無人島へ持っていきたいもの
あなたのリスト

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____
6. _____
7. _____
8. _____
9. _____
10. _____

資料6

無人島へ持っていくもの
グループのリスト

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

資料7

GAME3「何故、礼拝するのか？」手順書

以下のことについて考えてみてください。

1. 礼拝のプログラムの中で一番大切だと思い、一つだけ残すとしたらあなたは何を残しますか。
2. 迫害が始まり、皆で集まるのさえ危険です。
さて、あなたのグループでは、何を一つだけ残してこの非常時の友と一緒に過ごす礼拝としますか。
何故、それを残しましたか。
3. 全体でのわかちあい

資料8

先週9/18の礼拝です。ここから一つだけ残してください。

主日礼拝

10:30～

奏楽

説教 榊原康成牧師

前奏

招詞 詩編98篇1節～3節

賛美 「栄光と賛美 王に」

「教会の歌」

祈祷 司会者

聖書朗読 詩篇 9篇

賛美 「Sing Of Your Great Love」

聖書 創世記 40章

説教 『忘れられても』

全員祈祷

賛美 「主の御手につつまれて」

「栄光主に、力ある神」

報告案内

献金

感謝祈祷

頌栄 「父なる神に」

祝祷

後奏

資料9

GAME4 「イエスと私」手順書

1. 台紙に、「イエス」と「私」と記した紙片を、両者の関係が分かるように自由に貼り付けて、表してください。距離や上下左右の位置などで関係を示してください。
自分の名前も書きましょう。
2. 「私」の周りに、自分の周りにあるもの、存在するもの、持っているもの、持ちたいもの、関係があることを書き出してください。それらと自分との距離、近いか大切かそうではないか？などを考慮して、図示してください。色紙、カラーマーカーを使って自由に書いてください。
3. その中で特に大切なものに印をつけてください。どんな印でも構いません。
4. ふりかえり
以下の点からのふりかえりを個人が全体に伝え、それを聴いた人が相手に感想を伝えてください。
 - (1) なぜ、その位置に「イエス」と「私」を置きましたか？
 - (2) 何が大切だと思っっていますか？
 - (3) それはなぜ大切なのですか？

資料10



実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号（2008）より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお勧めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ <http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/> をご参照ください）。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

実習を使用する際の留意事項

1. 著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載をすることは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。
2. ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008）「グループ エントランス」

南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第7号より

3. 課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。
4. ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。